

社会科学習指導案

平成16年10月5日(火)第5校時
第2学年A組 指導者 細矢克明

授業の視点

資料の読み取りに習熟していないという生徒の実態を踏まえて作成した揭示資料は、フランスの特色を分かりやすくとらえさせるために効果的であったか。

題材 地域との結びつきを強めるフランス

考察

1 題材観

フランスを表現する言葉として、「ヨーロッパ西部にあって北部・西部は大西洋、南部は地中海に面する共和国」、「高い穀物自給率に裏付けされた豊富な材料と洗練された味の料理、優雅を極めたファッションの国」、「自由・平等・博愛をとらえたフランス革命と人権宣言で知られ、何よりも自由と人権を尊重する国」、「フランス、諸技術と武力と法律の母(デュ・ベレー)」等が聞かれる。しかし、これらの言葉のいずれにも虚像的な面も見られる。つまり、それだけフランスという国は、一口では言えないほど、自然・歴史・文化・政治・産業等で多くの特色を持った「多面な顔」をもつ国なのである。本題材では、「世界の国々との比較」「他地域との結びつき」「EUとの関係」などの視点を中心に、多面な顔をもつと言われるフランス共和国の地域的特色を、多面的にとらえ、多角的に考察していく。主な学習内容は、統計資料等からフランスの特色をとらえる、フランス文化の広がり、産業の特色、EUとの関係、の四つである。

では、揭示資料、教科書、地図帳等、様々な資料を活用し、その比較などの分析検討を行う。また、資料間の比較をしたり関連づけを図ったりすることで、事象についての説明ができるようにしていく。これらの学習を通して、フランスの実像について知るだけでなく、地域的特色に迫っていくとともに、地理的事象を他と関連させたり、複数の点からとらえたりする力を育てていくことができる。では、生活・文化に関わる情報や事物を集め、なぜ、フランス文化が世界的な広がりを持っているのかを考える。ここでは、集めた事物の分析検討を行い、適正な資料を的確に選択し、事実を裏付けられた発表等を行うことによって、資料活用能力を高めることができる。では、農作物や工業製品の輸出、輸入でヨーロッパ各国と密接なつながりにあることを、交通機関との結びつきなどを通して理解する。また、複雑な民族構成、各国間の貿易状況などの理解を通して、現在のフランスの地域的特色を理解する。ここでは、できるだけ多くの図やグラフ等を用いてフランスの地域的特色を他と関連づけながら考えさせることによって、地理的事象を一面的ではなく、多面的・多角的に考察する態度を身につけることができる。では、EUとの関係をもはや人の具体的な動きと、経済の関係などに視点をあてて理解する。また、なぜ、EUとしてまとまってきているのかについての理由を、様々な視点から追究することによって、比較や他地域との結びつきを調べる視点や方法を学ぶことができる。

～ を通して、本題材では、地域の環境条件、他地域との結びつき、人々の営み及びそれらの相互関係に留意して様々な資料を収集し、取捨選択したり関連付けたりする中で、多面的・多角的に地域的特色を浮かび上がらせ、とらえさせることによって、国家規模での地域的特色をとらえる視点や方法を身につけることができる。また、フランスの地理的事象の多面性に気づき、その成立要因を多角的に考察することを通して、地理的事象を地域的特色として公正に判断する力を身に付けていくことができる。

2 生徒の実態

本学級は、男子12名、女子11名、計23名で構成されている。日常の授業における観察や事前調査（下記に記載）からとらえた本題材に関わる生徒の実態は次のとおりである。

フランスに関わる興味や関心は、実態調査から、3年生のときにホームステイとして訪れるアメリカなどと比べるとかなり低い。これは、地球上の位置関係からみても遠く離れた国で身近に感じられないということもあるが、車・衣服・香水・フランス料理・ワイン・チーズ等、フランスの特色ある産業や文化の影響を直接肌で感じられる年齢層ではないということが主因ではないかと考える。思考・判断面については、日常の授業等で資料等を活用し地理的な事象を考察するような場面において、ほとんどの生徒が地理的事象の多面性に気付かず、地理的事象を成り立たせている諸条件を一面的にしかとらえることができない。そのため、地理的事象について、複数の情報を関連させて考察できる生徒は少ない。資料活用の面についても、思考・判断面と似たような傾向にあり、提示された資料から、一つの情報を得ることは多くの生徒ができるが、複数の情報を得ることのできる生徒は少ない。また、自ら資料を探したり、適正な資料に基づいて自分の考えを述べたりできる生徒も少ない。フランスに関わる知識・理解面においては、事前調査を見ると極めて断片的で浅いものであることが分かる。これは、興味・関心面も関わるが、日常生活の中でほとんどニュースや新聞を見ないという時事情勢に対する無関心さも大きな要因となっていると考える。

フランスを学習するにあたっての事前調査（H16.9.15） 複数回答可

行ってみたい国、興味のある国。

アメリカ（11名） オーストラリア（3名） ギリシャ（2名） 韓国（2名）
フランス、イタリア、中国、ドイツ、カナダ（各1名）

普段、ニュースや新聞はよく見るか。

見る（0名） たまに見る（5名） あまり見ない（15名） 見ない（3名）

フランスは何州にあるか。

ヨーロッパ州（19名） フロリダ州（1名） 無回答（3名）

フランスの工業について知っていること。

人形作り（フランス人形） ヨーロッパ連合で近隣の国々と協力している。

家具作り。 自動車会社が多くある。 無回答（19名）

フランスの農業について知っていること。

小麦やブドウを栽培している。米は作っていない。 小麦の栽培（2名）

肉（畜産）。 ボルドーワイン。 ワイン作り。 パドックの格付け。

野菜をたくさん作っている。 無回答（17名）

フランスの文化に関することで、知っていること。

サッカーが強い。（2名） 有名な美術品がある。

EUで文化の統制をめざしている。 貴族階級がある。 無回答（19名）

フランスと日本との関わりについて知っていること。

太平洋戦争。 貿易相手。（3名）

食文化などが日本に入ってきている。 無回答（19名）

その他、1～5以外のことで、フランスについて知っていること。

フランスパン（9名） サッカー 首都がパリ（3名） エッフェル塔 チーズ

青・白・赤の三色旗（3名） フランス人形 フランス革命（3名） 凱旋門

ヨーロッパの西にある ヨーロッパ共通の通貨「ユーロ」が流通 ワイン（2名

流行ファッションの発信地（パリコレ） ほとんどの人が白人 フランス料理

一日一回風呂に入る人は人口の約半分。 気候が暖かい。 無回答（8名）

フランスの学習で「調べ学習」を行う場合、どのような方法を活用するか。

インターネット（18名） 図書館の本（15名） 人に聞く（2名）

フランス人に聞く（1名） アンケートをとる（1名） 無回答（3名）

3 題材の系統

《第1学年》

世界のすがた
世界の国々を知ろう
世界の地域区分
いろいろな国を探そう
世界旅行を計画しよう
世界の国々の位置や名称
などに関心を持たせる。

身近な地域の調査
身近な地域を見直そう
調査、テーマを決めて見通しを立てよう
いろいろな方法で調査活動しよう
調査活動をまとめ、発表しよう
市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法
地理的なまとめ方や発表の方法を身につける。

《第2学年》

都道府県の調査
岩手県の調査
福岡県の調査
東京都の調査
幾つかの都道府県を取り上げ、地域
的特色を見いだして追究し、地域
的特色をとらえさせるとともに、都道
府県規模の地域的特色をとらえる視
点や方法を身につける。

世界の国々の調査
多様な地域から構成されるアメリカ
多様な文化と変容するマレーシア
地域との結びつきを強めるフランス
(本題材)
世界の国々の中から幾つかの国を取
り上げ、地理的事象を見いだして追
究し、地域的特色をとらえさせると
ともに、国家規模の地域的特色をと
らえる視点や方法を身につけさせる。

さまざまな面から見た日本
日本の自然環境
日本の人々の暮らし
世界と日本の人口
世界と日本の産業・資源
広がる地域間の結びつき
世界的視野から見た日本の地域的特色と日本全体の視
野から見た国内の諸地域的特色を追究し、我が国の国
土と特色を様々な面から大観させるとともに、地域
規模に応じて、また、地域間を比較し関連付けて、地
域的特色を明らかにする視点や方法を身に付けさせる。

4 指導方針及び留意点

本題材は、国家規模の地域を追究する視点に基づいて、生徒自身が課題を設定し解決に向けて追究し、フランスの地域的特色を明らかにしていけるよう、課題解決的な学習を進める。資料の収集や読み取りに習熟している生徒が少ないため、掲示資料は文化、産業、EUとの関係など学習内容に沿ったもので、読み取りやすいものを用いるようにする。

課題を決定し、追究のための資料を収集する段階では、インターネットや図書館を活用する等、事前調査で生徒が答えた結果などを提示し、収集のための方法を確認することによって、迅速に収集作業に取りかかれるようにしていきたい。

生徒が資料を収集し選択する場面、選択した資料を比較したり関連させたりしながらまとめていく場面、まとめたものを発表し他の班と比べたりしながら補足や修正をしていく場面等で、適宜、指導や助言等を行っていくことによって、授業中における指導と評価の一体化を図っていきたい。

資料から読み取れたことを、整理したり、まとめたりしやすいように、学習プリントを活用していく。

生徒がまとめたものは、できるだけ壁等に掲示したり、ノートに貼れる大きさにまとめ印刷して一人一人に配布したりしていくことによって、後の復習などに活用できるものとして残していくようにする。

本題材の整理やまとめの学習(5時、6時)の段階においては、生徒の課題追究の結果を活用しながら、学習内容で足りないものを補充していくようにする。

5 授業中における生徒指導

グループ活動が中心となるため、一部の生徒の考えだけで進んでいかないように留意するとともに、個々の考えが取り入れられた活動ができるよう支援していきたい。

評価を生かし、必要に応じて指導や支援を行うことによって、個やグループの学習意欲を高めていきたい。

個やグループの発表等に対しては、共感的な態度で望めるような雰囲気を作っていきたい。

6 校内研修との関わり

本題材では、生徒自らが課題を見つけ、グループ等で協力しながら追究活動を行う課題解決的な学習を進めていく。課題解決においては、資料収集の段階、追究の段階、まとめの段階と各段階毎に評価や指導が行われ次の段階へと進んでいく。これは、本校の研修主題「きめ細かな指導の充実」や具体的な研修内容の一つである「指導と評価の一体化」に関わってくるものとする。

目 標

国家規模での比較や他地域との結びつきを調べる視点や方法を学び、フランスの地域的特色を明らかにする。

フランスの地域的特色に関わる地理的事象を成り立たせている要因について、自然条件と社会条件とを関わらせて多角的に考察して公正に判断する力を身に付ける。

評価規準

フランスの地理的事象に関心を持ち、地域的特色に関わる課題を自ら設定し、意欲的に調べている。(社会的事象への関心・意欲・態度)

フランスの地域的特色を成り立たせている要因について、自然条件と社会条件とを関わらせて考察し、その結果に基づいて地域的特色を公正に判断している。(社会的な思考・判断)

フランスの地域的特色をとらえるために地図や統計などの客観的な資料から必要な情報を読み取り、その情報を図や表などにまとめている。また、発表等に関しては、事実裏付けられた適正な資料などを用いて、分かりやすく説明している。(資料活用の技能・表現)

フランスの地域的特色をとらえ、文化の広がり、産業の特色、EUとの関係等について理解している。(社会的事象についての知識・理解)

指導と評価の計画(6時間予定)

時	主な学習活動	具体的な評価基準(評価方法)	補充的な支援	発展的な支援
1 本 時	フランスに関わる提示資料を読み取り、フランスの特色とらえ、分かりやすくまとめる。	【技・表】提示された資料を比較したり、関連させたりしながら、フランスの特色を読み取り、分かりやすくまとめている。 (観察、学習プリント)	まずは、一つの資料から一つの特色を読み取らせる。 まとめでつまずいた場合は、アメリカの例示を思い出させる。	まとめの段階で、複数の資料の特色や関連性から、一つの地理的事象の特色を見いださせるようにする。
2	自分たちがとらえたフランスの特色を基に、さらに深く追究したい課題を見つけ、そのための資料を収集する。	【思・判】自分たちや他の班がまとめたフランスの特色を基に考え、フランスの特色をさらに深く追究するのにふさわしい課題を見つけている。 (観察、学習プリント)	課題を立てる段階では、自分や他の生徒との共通点などを意識させて考えさせる。	追究する視点や方向を明らかにしてから、資料を収集させるようにする。

3	適正な資料を選択するために、収集した資料を分析・検討する。 適正な資料を基に、課題を追究する。	【関・意・態】選択した、適正な資料をもとに、グループで話し合いながら、課題追究に向けて、意欲的に学習プリントにまとめようとしている。（観察、学習プリント）	収集した資料を整理させ、活用できる事実を明らかにしてから、まとめていくようにする。	まとめの段階において、事実と考察の整合性に基いて考察されているか、しっかり確認させる。
4	各班毎に、課題追究の結果を発表する。	【技・表】追究の結果を表現するために、図やグラフなどを活用して、分かりやすく発表している。（観察・発言）	他グループからの質問や意見を基に、自分たちの不備な部分や矛盾している部分などを確認させる。	適正な資料に基づく事実と考察との関係を、しっかり関連付けて発表できるようにさせる。
5	前時の各班の発表等を基に、フランスの地域的特色を他の国々やEUと関連付けながら、総合的にまとめる。	【思・判】各班の発表等を基に、国家規模でフランスの地域的特色をとらえ、他の国々やEUと関連付けながら、総合的にまとめようとしている。（発言、学習プリント）	フランスの地域的特色をまとめていく上で、自分たちのまとめたものが、他の事象とどう関わりを持つのか考えさせる。	各グループでまとめたものを、関連・比較・分析し、より多くの視点からフランスの地域的特色をまとめていく。
6	ワークやドリル等を活用して、学習内容の定着を図る。	【知・理】ワークやドリルを活用して、今までの学習を振り返り、学習内容を定着させようとしている。（観察、ワーク、ドリル）	基礎的な内容からまとめていくようにする。 必要に応じて、助言を行う。	発展的な課題を用意しておく。

本時の学習

- 1 目標 フランスの特色を、文化、産業（農業・工業）、EUとの関係からとらえさせるために、グループで協力して、フランスに関わる資料を、比較したり、関連させたりしながら読み取ることによって、分かりやすくまとめることができる。
- 2 準備 教科書（東京書籍）、地図帳（帝国書院）、資料集（最新地理資料集 明治図書）、地理基本用語集（吉野教育図書）、フランスの特色に関わる提示資料、学習プリント

3 展開

過程	学 習 活 動	時間	学習の支援及び留意事項	評価項目
	1 本時の学習内容を知る。	10	フランス共和国について学習することを確認する。この際、生徒の関心を高めるために、フランス国歌や国旗を示したり、事前調査から生徒に一番馴染みのあるフランスパンを食させたりする。また、本時は、各グループ毎に協力して、提示された統計地図、グラフ、写真、絵などをもとに、フランスの特色を考えることを確認する。	

<p>2 グループで協力して、統計地図、グラフ、写真、絵などの資料を読み取る。</p> <p>3 資料から読み取れたことを学習プリントに整理し、フランスの特色についてまとめる。</p> <p>4 各班ごとにフランスの特色についてまとめたことを発表する。</p>		<p>以前学習したアメリカを例にあげて、資料の比較や関連の仕方など、資料の見方やまとめ方を確認してから、グループでの活動をさせるようにする。</p> <p>資料は、本題材の学習内容である、フランスの文化、産業、EUとの関係等に関わるものを、できるだけ大きく見やすい形にして、黒板や教室内の周りの壁に掲示する。</p> <p>巡視をしながら、各グループの活動状況を常に把握し、活動が進んでいないグループには助言等を、進んでいるグループにはさらに発展していけるような進言等をしていくことによって、授業中における指導と評価の一体化を図っていきたい。(以下同じ)</p> <p>3 5 グループは人数が多すぎて、個の考えが出にくくならないように、1グループ3～4名とする。</p> <p>読み取ったことを整理しやすいように、学習プリントを用意する。</p> <p>学習プリントでの最後のまとめに関しては、読み取った内容を単純に箇条書きに羅列するのではなく、どの資料の、どういうところから、どのような特色が考えられたのか、適正な事実裏付けられたまとめ方ができるようにする。</p> <p>学習プリントにまとめたフランスの特色を、各班の代表者に発表してもらう。</p> <p>各班の発表内容を、確認や比較がしやすいように、板書で簡単にまとめていく。</p> <p>発表者は、分かりやすい声で、筋道を立てて発表できるように、聞く側は共感的な態度で、しっかり聞けるようにする。また、ここでは、自分たちのまとめたものと比較しながら聞く、ということに集中させたいため、メモ等は無理して取らせないようにする。</p> <p>各班の発表内容に関しては、必要に応じて補足をしたり、激励したりしていく。</p>	<p>資料を比較したり、関連させたりしながら、フランスの特色を読み取り、分かりやすくまとめることができたか。</p>
<p>5 本時の学習内容を振り返り、次時の学習内容を知る。</p>	<p>5</p>	<p>本時の学習内容を簡単に振り返り、次時は本時にまとめられた各班毎のフランスの特色をもとに、フランスの特色について、さらに深く追究したい課題を班毎に見つけ、追究計画を立てることを確認していく。</p>	

「フランスの特色を読み取ろう」

2年 組 班

1 資料を読み取り、各資料から読み取ったことを下の表にまとめてみよう。

資料名	資料から読み取れたこと	考えられる特色
《例》 資料NO15	グラフを見ると、フランスは石炭や石油、鉄鉱石などの採掘量が世界の上位にあり、工業に関わりをもつ資源が豊かである。	豊かな資源を活用して、工業がさかんな国ではないか。

2 上の表を活用して、フランスの特色を考え、分かりやすくまとめてみよう。

フランスの特色	特色を判断した理由

フランスの特色を考えよう！！

各班の発表

班名	考えられる特色	判断した理由